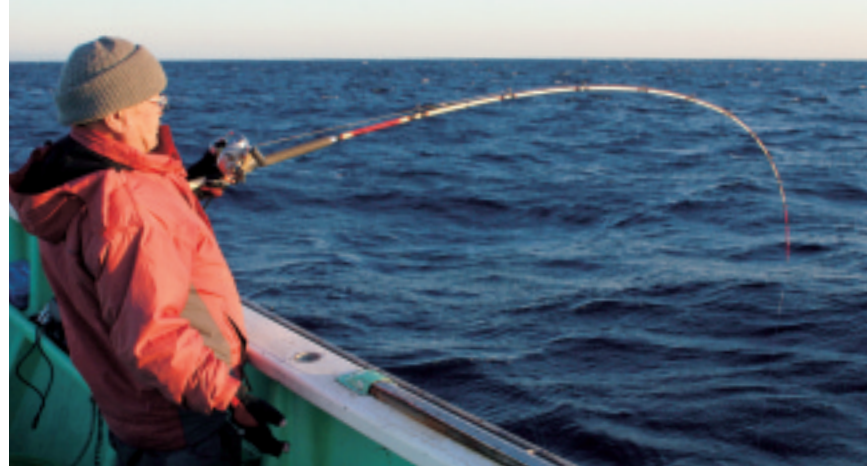


巻頭特集
ずらずらターゲット4
★ハリ数は8〜10本前後。パーフェクトの連発で、気分爽快！



茨城県大洗港出船 撮影◎本誌編集部

アタリ出したら止まらない
常磐エリアのエビハナダイ！
釣り方は簡単らくらく
3ヶタ釣果も当たり前！



▲じっくり追い食いを待って多点掛けを狙いたい



▲30センチオーバーの良型も取り込まれた



▲良型のアイナメも登場
▶ホウボウが交じることも多い



▲定番ゲストのアジ
◀根周りのポイントではマハタも顔を見せた



▲手軽に数釣りを堪能できるのが魅力



▲大洗沖の水深50メートル前後を狙う



◀仕掛けは胴つき6本バリが標準。昭栄丸では3本バリ仕掛けを連結して使う。オモリは60号



▼20〜25センチの中型が主体



▲時合ともなれば船中でひっきりなしに取り込まれる

エサの付け方がキモ

エサはアカエビやスムシなどの生きたエビ。ハリは軸の長い丸カイズが一般的で、尾羽根を切り、軸一杯にいていねいに刺す。それでもエビの頭だけをかじられるようなら、半分に切って頭側を付けるのも一手だ。



▼頭の付け根からハリ先を出すようにする



参照)

ウボウ、アイナメ、アジ、オキメバル、イナダと豪華な面子が釣れ上がる。釣り方簡単、お土産たっぷりの常磐のハナダイ、スラスラの快感を手軽に味わいたい人にイチオシです！
・写真は茨城県大洗港の昭栄丸にて（詳細は巻頭特集および本文44ページ参照）

海 底からオモリを1〜2メートル離した遠端にアタリがきた。グイッと合わせを入れてそのまましばらく待つと、ググッ、グググッと追いついた手応え。船中のあちこちでピンク色のハナダイがズラズラと取り込まれ、足元のタルが見る間に満たされていく。それが、常磐エリアのエビハナダイ。取材で訪れた大洗港出船では主に大洗沖の水深50メートル前後を狙い、17〜35センチをトップ1束超、2束オーバーになることも珍しくない釣れっぷりが続いている。
タイ類ならではの引きのよさと、ゲストが多彩なもの魅力で、マハタ、ホ

